

平成29年度第1回伏見区基本計画推進区民会議

日時：平成29年5月25日

会場：伏見区役所4階中会議室

1 開会、伏見区長挨拶

本日はお忙しい中、平成29年度第1回伏見区基本計画推進区民会議に御出席いただき感謝申し上げます。また、日頃から座長や副座長をはじめ、委員の皆様には、伏見区政の推進に御理解・御協力をいただいていることに、心からお礼申し上げます。

この区民会議は、平成23年に策定した伏見区基本計画を着実に進めるために区民の皆様をはじめ事業者、関係機関、行政等が協働して、進捗状況の確認や皆様からご意見をいただく、非常に重要な伏見区の議会であると認識している。

昨年、悲願であった文化庁の京都への全面移転が決定した。今年4月には、東山区に文化庁地域文化創生本部が設置され移転の準備が進められている。

京都市の文化行政は、大きな転換期を迎える中、市長を先頭に、文化というキーワードを基軸にあらゆる政策を結びつけ融合させていく取組を進めている。伏見区においても、こうした機を逃さないように、保健・福祉、子育て、教育から、観光経済等の分野において、積極的に文化の視点を取り入れるとともに、まちづくりの根幹である安心安全の取組も推進させていく。

区役所としても、深草担当区長、醍醐担当区長とともに区役所、支所職員一丸となって、「伏見に住んでいて良かった」、「事業をされていて良かった」、「伏見を訪れて良かった」と実感していただけるまちづくりに全力を尽くしてまいりたい。

結びに、本日の会議が実り多きものとなるようお願いし、挨拶とさせていただきます。

2 委員紹介

3 座長挨拶

今年度も、引き続き、座長を務めさせていただく。先日、あるシンポジウム

が大阪で開催され、司会進行と基調講演を行い、大阪市長・神戸市長・京都市長の3市長がパネラーとして出席された。私は、大阪生まれ大阪育ちの大阪人であると話をしていたところ、門川市長から「橋爪座長は、京都人である。」と仰っていただいた。3日住めば京都人であると。元々、母方が京都に住んでおり、叔父が伏見で店を経営していた。伏見にご縁がある。これから少子高齢化の話もある、観光振興の話もある中で、多くの方に地域に来ていただいて、子育て支援をさせていただきながら、次世代の担い手を育てていきたい。伏見区においても、多くの方に来ていただくことが大事である。そのためには、文化も非常に大事である。文化財だけでなく、生活文化そのものが地域の魅力だと思う。地域の暮らしやおいしいもの、楽しい時間があるので、伏見各地区の魅力ある文化を盛り上げていきたい。

2020年の東京オリンピック、パラリンピックの開催に向けて、特に観光分野では、ホテルや観光地を整備するといったことが日本各地で進められている。例えば、北京オリンピックの時は、アメリカのエアラインは成田が乗り継ぎ地であるため、中国へ向かう前後に京都に立ち寄るアメリカの観光客がとて増えた。

今回は東京開催なので、世界中から多くの観光客が京都にもやってくるだろう。

2020年に向けて、魅力ある地域づくりを行っていききたいところであるが、伏見には、地域の顔となるようなホテルがないことが長年の課題になっている。酒蔵など古い建物を改修したホテルも各地にあるので伏見でも参考にしてみてもどうか。

4 事務局からの報告等

(1) 平成29年度伏見区運営方針

(事務局から説明：資料1, 2)

(村井繁光委員)

伏見区区民活動支援事業について、子ども食堂等の子どもの居場所づくりに関する事業の申請件数は何件か。

(事務局)

現在、精査している状況であるが、子どもの貧困に関するものは、4件の申請があった。

(2) 平成29年度の区役所・支所の取組について（新規・充実事業等）
伏見区役所の取組について

(事務局から説明：資料3)

(橋爪座長)

今年は、大政奉還150年、来年は鳥羽伏見の戦い、明治維新150年である。明治維新150年の事業については、鹿児島が早くから準備を進めている。伏見区でも今年、来年と盛り上がればと思うが、戦いがあるって盛り上がって良いのかは悩ましい部分である。

(田中委員)

基本計画は第2期の7年目になり、第1期からは17年経過しているが、基本計画はどの辺りまで到達しているのか。また、中心市街地に目が向きがちであるが、淀、久我、羽束師等の地域にも歴史資源がある。

また、向島では、まちづくりビジョンができ、これから4年間取り組んでいく予定である。中心市街地以外の地域にも視点をもっていくことが大事であると考えている。

(事務局)

例えば、向島では、観光面で向島城や千姫といった点在している資源を集約して発信する必要がある。

広報活動として市民しんぶんの区民版の充実やホームページ等をより多くの皆様に見ていただけるよう取り組んでいく。細部に渡り、伏見区ならではの部分をどう掘り下げていくのが課題であり、顕在化していない部分にも視野を広げて具体化する中で、より良い伏見区を作っていくのが大事であると認識している。

(伏見区長)

区長に就任してから2か月間、伏見を見て回り、淀、向島にも行き、地域で様々なイベントやまちづくり活動が行われていることを目にしたが、内外への伝える力が弱いと反省している。今後は、様々なツールを活用して地域の文化、まちづくりの情報発信をしていきたい。

また、基本計画の進捗率についても市の基本計画は、着手率等を把握している。伏見区の基本計画の進捗等についても工夫をして発信をしていきたい。

(加藤委員)

向島のプロジェクトに関わっており、立派な答申が出たのでこれから着手していく。

年月を経て、向島ニュータウンでは空家が増えており、自治会活動の濃淡がある。また、生活保護家庭が一部の地域に集中していることや中国からの帰国者、ニューカマーが増えている中で、一つの小学校が廃校になり、その跡地をどうするのか、住民主体で頑張ろうという機運が高まっている。そういった内容もこの会議の場でフィードバックしていただければありがたい。

また、若い人達の非婚化、晩婚化、晩産化も気になっている。地域でも一人世帯、二人世帯が増えており、こうした課題に対しても立ち向かっていただきたい。

(高橋委員)

観光振興について、昨年、酒造組合が開催された蔵開きのスタンプラリーの時は、自宅までの帰り道に何回も道を尋ねられた。それくらい、伏見のまちに人が溢れていた。そのような時に伏見区民としてのおもてなしの心得を知っておくことも必要ではないかと感じた。

(白石委員)

伏見区内での多くのプロジェクトがあることや、史跡めぐり等参加できるものもたくさんあることを知った。

先ほど、区長が広報に力を入れていくと話されていたが、周知をさらに進めていくために、中学校PTAの総会等の場で、参加型のイベントなど伏見区の取組を1冊のダイジェストにして配布することも考えられる。

(伏見区長)

地域の皆様も様々なイベントを開催されており、区役所としても様々なまちづくり支援に取り組んでいるが、なかなか情報が伝わっていない。

現在、ホームページ上において日々の出来事を写真、説明文で紹介していくページを計画している。

また、各団体の会合等への出前トークも積極的に行い、情報発信に努めていきたい。

向島ニュータウンのまちづくりについては、まちづくりビジョンが今年3月に策定され、推進会議、ワーキンググループを立ち上げたばかりである。今後、報告してまいりたい。

(橋爪座長)

次回の会議時にお願いしたい。

(岩井委員)

地域防災について、防災会議の中で、災害があった時の避難の方法や自治会に加入していない方が避難されてきた場合の対応、障害を持つ方への対応等、様々な悩みを抱えており、避難所マニュアルにないケース等の対応を教えてください。

また、災害時の水や食料の備蓄を5年サイクルで行っているが、これらは自治会費で補っており、自治会に加入していない方にも提供するのか等、色々な意見があるが、どのように対応すべきか教えてほしい。

(土田委員)

学区内のマンションに中国の方が多くなっており、マンション内で役を担える方がいなくなっている。自治会にも加入しておらず、言葉も通じない。このような状況が続くと自治会活動を続けるのは困難になってくる。さらに災害時の避難所となったときにどうするのかといった課題が出てきている。

また、向島ニュータウンではまちづくりを頑張っており、5月27日にはホテルを放流する。

砂川学区では、伏見工業高校と一緒に東高瀬川の清掃活動を実施しており、6月10日にホテルの放流を予定している。向島、山科、御陵と学区を越えた

付き合いを進めながら、「子ども達に思い出のふるさとを」をスローガンに励んでいる。

(中野委員)

淀地域では、平成25年の台風18号で実際に住民が避難した。基本的に様々な地域団体が行う活動や非常時に待遇を受ける対象は、自治会員である。未加入者も同等の扱いを受けることができれば、自治会に加入していなくても良いことになり、脱会者が増えるだろう。実際、私の町内でも自治会員の世帯数が減ってきている。

そのため、地域の方には、「自治会には入ってください、高齢等の理由がある場合は、必要に応じて、役を免除する。」と説明している。

各学区にある避難所マニュアルについても、自治会員と未加入者に区分けしている。

京都市でも自治会への加入活動を支援いただいているが、なかなか解決は難しい状況である。

(橋爪座長)

この会議では、これまでから、地震や水害といった災害時の避難対応について議論いただいている。

(2) 深草支所の取組について

(事務局から説明：資料4)

(2) 醍醐支所の取組について

(事務局から説明：資料5)

(醍醐担当区長)

岩井委員から災害への対応、地域コミュニティや自治会組織率の低下といった問題へのご提言をいただいた。いつ起きるかわからない災害の避難所運営を自主防災会、地域の学区組織等が協働して運営していることは、自治会組織率が健全であった頃から変わらない手段であり、手法としてはベストであると考えている。現状では、自治会加入率が下がっているが、必要性を訴えていくこ

とが重要である。また、地域において高齢者の見守り活動等、地域の課題に対して取り組んでいただいていることをしっかりとお伝えすることが重要であると考えている。

徐々に、これまで自治会役員の皆様にお任せしていた加入促進の部分も、行政としてもしっかりとした立場を取らなければと認識し、地域の方と一緒に、自治会加入に向けて個別に何うことも含めて取組を始めたところである。すぐに結果を出すのは難しい部分もあると思うが、じっくりと取り組んでいきたい。

(岩井委員)

個別に顔を見て、加入促進していただければ、いい結果につながると思う。今後もよろしくお願ひしたい。

(3) 保健福祉センターの設置について

(事務局から説明：資料6)

(橋爪座長)

窓口が一本化され、従来よりも利便性が向上すると思う。

4 意見交換

(田中委員)

深草支所の取組を心強く感じている。大岩街道を毎日、車で走っているが、岡田山の問題等、困難な課題に行政が住民と協力して長年、根気強く取り組んでいることに敬意を表したい。

大岩街道は、数百年におよぶ歴史街道であり、深草少将が通り、旧東海道にもなっている。地元の通勤にも使用している日常の街道に美意識を感じられるまちづくりも大切だと思う。

嵐山の竹林や伏見稲荷が、外国人観光客に人気である。大岩山の竹林なども私有地であるものの、景観を良くできないものかと思う。景観の良さは防犯にも役立ち、精神的豊かさをもたらすと思う。

(橋爪座長)

前の基本計画でも大岩山の環境問題を取り上げた経緯があり、重要な指摘である。

(田中委員)

ダンプカーが走るのは構わないが、街中では、ダンプカーが出てくる時は高圧洗浄機で洗ってから街中に出てくる。なぜ、大岩街道では土がついたまま出てくるのが許されるのか。もう少し大岩街道を尊重して欲しい。

(深草担当区長)

大岩街道はもともと旧東海道線が走っていた遺構があり、由緒ある街道である。そういった歴史的価値を取り戻す取組も必要である。大岩街道のイメージを変えようという取組として谷口町の七瀬川の遊水地をきれいにする計画があり、スポット的な取組であるが、全体のイメージを変えようと試みている。また、これまでの大岩街道のイメージにはなかった、和菓子屋もできており、多くの客でにぎわっている。こういった店舗の誘致もイメージを変えていくことにつながると考えている。

(深草支所地域力推進室長)

深草は、平安時代から竹で有名な場所で、伏見全体が呉竹の里と言われている。

竹林を整備する際は、非常に労力がかかり、現在、放置竹林が目立っている。農家等から話を聞くと「自分で何とかしたいができない、可能であればお願いしたい。」と話され、龍谷大学や京都教育大学の学生の力を借りながら、放置竹林の伐採を実施しているが、土地が広大で追いつかない状況がある。

一方、竹林を見直すという視点で、農家の有志が勉強会を立ち上げ、竹の子の販路を開拓していく活動も始められている。

竹林整備は時間がかかると思うが、粘り強く取り組んでいくのでご支援をお願いしたい。

(各団体からの報告)

醍醐いきいき市民活動センター，伏見いきいき市民活動センター，京エコロジーセンター

5 副座長挨拶

本日は，今後の区の基本計画がどうあるべきかをお話しいただいた。

行政に主導されてやってもらっているような感じがあるが，様々な社会的背景を持った委員が出席しているため，充実した意見交換が重要である。

本日の出席委員にも市政協力委員が複数人おり，その中でも話題になっているが，奈良線の複線化が進んでおり，大きく環境が変わる。それに関してバリアフリー，弱者に対する在り方について激論を重ねていただいている。そういったこともまちづくりを進めるうえで重要である。

事務局から説明のあった伏見区区民活動支援事業の審査会が，6月23日に開催され，加藤委員の指導のもと論議する予定である。伏見区の基本計画を大きく推進させる事業だと考えている。

馬屋原区長にも冒頭ご挨拶いただいたが，心強く感じており，子どもからお年寄りまで「伏見区に住んでいて良かった」と思えるまちづくりのため，今後よろしく願いしたい。

6 閉会